

広がっています。多剤耐性結核菌に効果のある抗結核薬も登場しました。変わらないのは、「培養検査から同定検査を経て結核菌を証明することが黄金律であること」です。

新型コロナウイルス感染症が流行する前は、外国生まれの方の結核が沖縄県でも、日本全国でも対策の課題としてあげられていました。専門学校やその寮における集団発生なども見られました。日本の結核の統計(2020年)では「外国生まれ」の患者は1,411人と全体の11.1%、20代の患者に限ってみると約7割をしめており、近年の課題として対策が検討されています。特に海外由来の場合、耐性菌の割合が我が国の割合より高いことが多いため、咳などの症状が出る前に早期発見することが重要になります。結核判明時には、喀痰培養検査から薬剤感受性検査を行い、感受性のある抗結核薬を使用する必要があります。

保健所の結核対策業務でお世話になっているのは、長年沖縄県における結核診療に貢献している国立病院機構沖縄病院です。国立病院機構沖縄病院の先生・職員の方々には、隔離入院の対応や本島内各保健所での感染症診査会委員と

しての対応に感謝します。また、仕事柄お世話になっている結核予防会沖縄県支部や、その活動趣旨に賛同して毎年普及啓発活動及び募金活動をされている一般社団法人沖縄県婦人連合会(沖縄県結核予防婦人連絡協議会)の皆様には感謝いたします。

国からの支援として、結核予防会結核研究所の先生方には沖縄が復帰する前から来沖されて対策の指導に当たり、数十年にわたり沖縄県結核サーベイランス委員会で最新の動向や対策のアドバイスをもらっております。いつもありがとうございます。

最後に、結核は様々な病態をとる疾患であることと、私が琉球大学医学部第二内科の研修の初期に指導医から受けたアドバイス、「肺に影がある患者に対しては、症状が無くても、喀痰の抗酸菌染色を3回提出(三連痰)すること」を皆様の診療の時に頭の片隅にとめていただき、結核患者の診断に寄与する機会となれば幸いです。診断時には最寄りの保健所に直ちに届けるようお願いいたします。(実務上は最寄りの保健所の結核担当に相談をお願いします。)

お知らせ

文書映像データ管理システムについて(ご案内)

さて、沖縄県医師会では、会員へ各種通知、事業案内、講演会映像等の配信を行う「文書映像データ管理システム」事業を平成23年4月から開始しております。

また、各種通知等につきましては、希望する会員へ郵送等に併せてメール配信を行っております。

なお、「文書映像データ管理システム」(下記URL参照)をご利用いただくにはアカウントとパスワードが必要となっており、また、メール配信を希望する場合は、当システムからお申し込みいただくことにしております。

アカウント・パスワードのご照会並びにご不明な点につきましては、沖縄県医師会事務局(TEL098-888-0087 担当:宮城・國吉)までお電話いただくか、氏名、医療機関名を明記の上omajimusyo@okinawa.med.or.jpまでお問い合わせ下さいませようようお願い申し上げます。

○「文書映像データ管理システム」

URL : <https://www.documents.okinawa.med.or.jp/Dshare/header.do?action=login>

※ 当システムは、沖縄県医師会ホームページからもアクセスいただけます。

